

佐倉河小学校

児童数 262人
所在地 奥州市水沢佐倉河字曾根7番地
☎ 23-2969

佐倉河小学校は、明治6年7月に開校し、今年で創立147年目を迎えました。学区は水沢地域北部の胆沢川と北上川が形成した胆沢扇状地に位置し、水沢市街地を包むように東西に長く広がり、県内有数の穀倉地帯となっています。

また、延暦年間、坂上田村麻呂が開発の拠点とした胆沢城跡など歴史的遺産も数多く残されています。

学区内には、JR東北本線と国道4号線が南北に走り、東北自動車道の水沢インターチェンジが設置されています。近年、金ヶ崎バイパス等主要幹線道路が整備されるとともに佐倉河団地や東高山団地など

が造成され転居してくる人も多く、「新しさ」と「古さ」を融和させながらよりよい文化や気風を創りだそうとしている地域です。

佐倉河って？

明治22年4月1日、町村制施行に伴い、宇佐村・満倉村・下河原村・常盤村のうち旧安土呂井・四丑・茄子川地域が合併して佐倉河村が発足しました。

学校通信

3年生 「大きく育てぼくらのリンゴ」

本校では、毎年3年生が地域の方の農園で、リンゴの学習をしています。子ども達は大きなリンゴを育てるための摘果作業、リンゴを虫や病気から守る薬剤散布、1個1個大切に育てるための袋かけの作業を体験し、リンゴ農家の方々のご苦労や豊作への願いを学んでいます。



真心込めて育てます

佐倉河小の大きな取り組み 「きらっと 佐小 プロジェクト」

これは、学校全体で取り組む「ポジティブな行動支援の考え方」に基づいたものであり、子ども達に望ましい行動を育てることが主な狙いです。

佐倉河小学校の子ども達に期待する行動目標「3つの大切」を子ども達の実態を踏まえ職員で考えました。

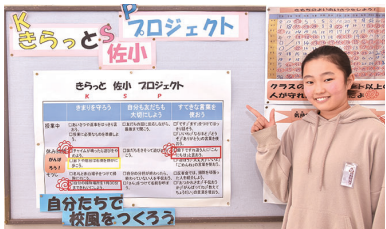
3つの大切

- 佐倉河小学校の子どもは
- きまりを守ります
- 自分も友達も大切にします
- すてきな言葉を使います

さらに、職員と児童会で各場面で行動目標を達成するための具体的な行動を考えました。「廊下ですれ違う人に『こんにちは』を言おう」、「『遊ぼう』『大丈夫』『いいよ』『ごめんね』」の言葉を使おう」など具体的な行動を示すことで、子ども達に望ましい行動の意識付けが図られました。

2学期は「きらっと 佐小 プロジェクト」、略して「KSP」に子ども達と職員が一緒になり取り組んでいます。あいさつの風、掃除を頑張る風、優しい思いやりの風、いろいろな風を巻き起こして佐倉河小学校の「校風」を創っています。

12月になってからは、6年生全員が輪番制で休み時間に校内を見回り、廊下を静かに歩いている下級生や同級生を褒め、ご褒美シールをあげる活動をしました。これを機に、自主的に廊下歩行を守ろうとする子どもが着実に増えています。自分も友達も、大切にすることが増えていることを、実感しているところです。



KSPで学校を活気付けます

5年生 「米どころ佐倉河」

本校では、5年生が胆沢平野土地改良区や地元ボランティアの方々のご尽力により、米作りを行っています。一年を通して、田植え、稲刈りなどの作業を体験しました。収穫祭では、新米「ちほみのり」と「芋の子汁」を調理し、収穫の喜びを味わうと共に、お世話になった方々をご招待し、感謝の気持ちを伝えました。



田植えの様子

企画展示「宇宙×ILC」
ILCと国立天文台水沢VBI観測所を紹介する企画展示「宇宙×ILC」が、12月16日から22日までの期間、水沢図書館で開催されました。科学への興味や関心を深める機会を提供するとともに、それぞれの研究などに対する理解を深めるために、県南広域振興局が同観測所と連携して実施。天文学や素粒子物理学などの蔵書のほか、ILCやブラックホールに加え、ニュースにも取り上げられた「はやぶさ2」などを紹介するパネルやリーフレットが展示されました。また、ILC推進モデル校



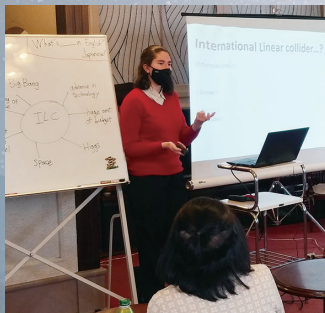
第86回
We support the ILC
希望のひかり
国際リニアコライダー（ILC）計画の各種最新情報をお届けします
水沢工業高等学校の生徒が制作した模型は、赤と青のLEDを使用して、電子と陽電子が衝突する様子を表現しており、来館者の目を引いていました。さらに、通常は非公開の本間希樹所長の観測ノートの実物なども展示され、来館者は興味深そうに見学していました。



展示されたILCの模型

英会話教室でILC出前講座を開催

市は、市国際交流協会と連携し、11月24日と12月18日に水沢地域交流館アスパアで行われたボランティア英会話教室に、ダウ・ペロニカILC国際化推進員を派遣し、出前講座を開催しました。出前講座は主に英語で進行之、「ILCではどのようなことをするのか」というクイ



講師のペロニカ推進員

ズなどを通じてILCを紹介したほか、「海外からやって来る研究者は岩手のどのようなところを気に入るだろうか」などを話し合いました。また、ベジタリアンやハラルの食事制限などを例とし、文化の違いを解説しました。参加者からは、「海外の研究者が私たちの近くに住んだら、コミュニケーションを楽しみたい」「さまざまな国の食文化に興味を持った」というような感想や、巨額な建設費を懸念する意見が出されました。市では、職員を派遣するILC出前講座を実施しています。内容は要望に応じてアレンジしており、今回紹介したように英語での進行も可能です。地域の行事や職場での学習会などへ、ぜひご活用ください。

節目人間ドックの申し込みを開始します

市では、5歳ごとの節目に人間ドックを受診する人の検査費用を助成します。

■対象 令和3年度中に20歳・25歳・30歳・35歳・40歳・45歳・50歳・55歳・60歳・65歳・70歳・75歳・80歳になる人

■定員 100人（先着順）

■必須検査 診察、尿、心電図、聴力、血液（肝腎、脂質、糖、貧血など）、肺機能、眼科、腹部超音波、胃、大腸がん、乳がん、子宮頸がん（女性）、前立腺がん（男性）

※新型コロナウイルス感染防止などのため、検査の一部を中止する場合があります

■検査費用（上記必須検査の場合）
男性…44,000円、女性…50,000円

■問い合わせ
本庁健康増進課健康づくり係
☎34-2903

【助成後の自己負担額】

国保・後期高齢者医療被保険者は28,000円、それ以外の人は36,000円（男女とも）

※市が実施する検診と重複して受けることはできません。重複受診した場合、人間ドックの検査費用は全額自己負担となります

■実施場所 総合水沢病院

■受診期間 5月～4月2月

■申し込み方法

総合水沢病院、各総合支所健康増進担当に備え付けの申込書をファクスまたは直接提出

■申込期間 2月1日（日）～3月31日（日）

■申込先 総合水沢病院健康管理科（FAX24-9091）